

調査分析(弊社分析-3採択団体の成果と課題/3採択団体共通の課題)

▽事業実施後アンケート結果をもとに見えた3採択団体の成果と課題概要

団体	良かった点	課題
宮城	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化、食、震災学習、高校生交流などを組み合わせたプログラムは参加者満足度が高い傾向にあった。 県人会会員同士や県職員・高校生との対面交流を通じ、人的ネットワークの再接続・強化につながった。 参加者が宮城県の魅力（文化・歴史・人の温かさ等）を具体的な言葉で捉え、帰国後の発信意欲が喚起された。 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム内容が充実している一方、振り返りや内省の時間が十分に確保できなかった。 地域住民や高校生との交流は、量・深さの面で拡充の余地がある。 事業内容や成果の、対外的な発信・可視化が十分でなかった。
長野	<ul style="list-style-type: none"> オンライン上で形成されていた関係性を、同窓会や体験型プログラム等の対面交流によって再接続し、参加者同士の人的ネットワークを実質的に強化できた。 食文化や伝統工芸等の体験を通じ、長野県の魅力を実感する機会となり、参加者の県への愛着形成につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業・団体側の連携意欲は喚起されたものの、NagaNetと具体的に「どのような形で関わられるのか」「次に何をすればよいのか」が分かりにくく、協働に向けた「導線の明確化が必要である」点が課題に挙がった。
富山	<ul style="list-style-type: none"> 同一県人会内における人的ネットワークの結束が強まり、対面交流の効果が明確に表れた。 富山県の魅力を具体的に再認識し、発信可能な形で言語化する参加者が多く見られた。 一部で、交流を契機とした商談や連携など、具体的な成果につながる動きが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> 他地域の県人会との横断的なつながりが、十分に深化しきれていない。 県民・県内企業と「ゆかりのある方々」との交流機会が限られ、関心の高まりを具体的な連携に結び付ける設計が不足していた。 次世代・若者の継続的な関与を見据えた仕組みづくりには引き続き課題が残る。

▽3団体共通課題と対応

・事業計画(実施計画書・ロジックモデルの設定)

事業設計の経験が少ない/未経験の担当者が多かったことから、3採択団体全てにおいて、計画書作成段階で、「課題背景が不明瞭/課題を裏付ける事実が弱い」「課題への対策の繋がりが曖昧」「目標数値に根拠がない」などの論理構造が欠落していた

→[実施した事務局の助言]改善一覧を作成し、各団体と個別協議を行い、「目標設定や課題に対するアプローチの適正化」を行った

・事業実施

事業上、早めに着手すべき(クリティカルパス、不確実性が高い等)の見極めができておらず、参加者募集不振や、早めに決めるべきプログラム具体化等に遅延が生じた
→[実施した事務局の助言]募集開始の周知方法助言や、プログラム詳細化のために事業背景整理など個別ミーティングやメールにて行った。また、月次報告時に早めに着手すべき点を「遅延がないか」と同時に「予定通り着手できそうか」もリマインドした

・進捗管理・報告体制

人員不足や他業務との兼務により、報告書提出の遅延が一部で発生した

→[実施した事務局の助言]事業全体に影響しないよう期限を予め前倒しして設定し、遅延があっても問題ない期限を設定 + 定期リマインドを実施